
岐阜県立高山工業高等学校

学校長 村田 和宏

学校住所 高山市千島町291番地 電話 0577-32-0418

1 会議名 高山工業高等学校学校運営協議会 (第1回)

2 開催日時 令和3年6月8日(火) 13:15~15:40

3 開催場所 高山工業高等学校 会議室

4 参加者

会長	溝下 学	育友会会長
副会長	西洞 正樹	千島町町内会副会長
委員	中野谷 康司	高山市教育長
	建石 淳	高山市立日枝中学校教頭(代理出席)
	角井 昭雄	高山市立花里小学校校長
	今井 哲子	高山市商工会議所 女性部
	岡田 明子	飛騨木工連合会 理事

学校側	村田 和宏	校長
	岩島 義則	教頭
	和仁 崇幸	事務長
	門前 雅人	教務主任
	高橋 佑介	生徒指導主事
	山下 泰司	進路指導主事
	川上 登	工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校経営計画・運営組織・教育課程について

(2) 指導の重点と自己評価について

意見1: 発達障がい等のある生徒の特性を踏まえた対応とするため、生徒支援部を設置したことは非常に良い視点である。発達障がいに対する派遣事業はどのようなものがあるのか。

⇒ 担当のスクールカウンセラーの派遣や、必要時に派遣を依頼するスペシャルサポート事業などがある。

意見2: 工業高校は男子が多い学校という印象であるが、女子生徒は何名在籍しているのか。また、寮生は学科による偏りはあるのか。

⇒ 女子生徒は1年生13名、2年生8名、3年生7名、計28名である。寮生は学科による偏りは見られない。

意見3: 県外募集についてどのようにPRをしているのか。

⇒ 県の広報の他、木工連合会の協力を得てイベント等でリーフレットを設置させていただいた。

意見4: 近隣中学校での作品展示は保護者も見ている。今後も引き続き充実させてほしい。

意見5: 定員割れは大きな課題であるが、きめ細やかな指導には定評がある。今後も継続してほしい。

(2) 「三つの方針（スクール・ポリシー）」策定に向けた意見交換

○高山工業高等学校の良さについて

意見1：プログラミングの出前授業のように、工業高校の専門性や特色を小学生などに広める活動に魅力がある。

意見2：きめ細やかな指導や学びなおしに加え、新たに専門的な学問を学ぶことができる。

意見3：グループで共同的に解決を目指す実習授業や、CADや3Dプリンタ等の実践的技術、さらに伝統文化の継承活動への参加等によってスペシャリストの土台を作るという重要な位置付けがある。

○高山工業高等学校が今後さらに発展するために必要なこと

意見1：中学校訪問や専門性を生かした中高連携等、小中学校の保護者に学校の魅力を説明する機会を増やす。

意見2：「飛騨の匠」を学ぶことによって地域の伝統文化や技術を継承する意識を高め、それをアピールしていく。

意見3：今後の女性活躍社会を見通して、女子生徒が工業高校を卒業し企業で活躍している様子をもっとアピールしてはどうか。また、工業高校に抱かれているネガティブなイメージを払拭していくことも大切。

○高山工業高等学校に期待していること

意見1：社会生活の中で挨拶が基本となる。専門的な学びを活かした地域貢献活動を通して技能や技術を高めるとともに、人との接し方についても育んだ生徒を育成してほしい。

意見2：多様な生徒を受け入れ、少人数での授業や学びなおしを通して手厚く指導することが生徒の成長や地域貢献につながっている。学校の魅力にもつながるので引き続き進めてほしい。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の学校運営方針等について承認が得られた。
- ・今年度の地域連携活動について、近隣の小中学校と共通理解を図ることができた。
- ・「三つの方針（スクールポリシー）」の策定・公表に向け、策定に向けたプロセス、スケジュールについて、全委員に了解が得られた。また、委員から意見をいただいた。